令和５年度　学　校　評　価　【　計　画　書・　報　告　書　】　　加賀市立　庄 小学校 校長 野田 美由紀　印

学校教育ビジョン
教育目標　「かしこく　やさしく　たくましく」
「行きたくて　行かせたい　行ってみたい学校」
＜自ら学ぶ子＞　＜自分も人も大切にする子＞　＜自分に負けない子＞

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果（中間）	判定結果（最終）	今後の改善策
①教育課程・学習指導	・進んで自分の学びを深め，学びの楽しさを実感する子を育てる。	・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた授業改善に取り組む。	教務 学力づくり部	・学習規律が整い、学習への意欲はある。しかし、児童の学力は低く、自ら進んで学んだり、方法を試そうとする姿は学年によって差がある。	【成果指標】 ・低学年は2教科、中学年以上は4教科の学期末テストで、80点以上とることができる。	低学年は2教科、中学年以上は4教科の学期末テストで80点以上とることができた児童の割合が A：80％以上　B：70％以上 C：60％以上　D：60％未満	学期末テスト			
②生徒指導 ※いじめの未然防止	・安全・安心な風土を醸成する。	・問題のある行動を見逃さず、毅然とした態度で指導する。教師が支援をしながら、児童生徒に考えさせる。	心づくり部	・教職員は問題のある行動に対して毅然とした態度で指導している。一方的に指導をすることがあり、問題のある行動を児童に考えさせていないことがある。	【成果指標】 ・安全・安心な風土の醸成をするために、配慮のある言動をすることができる。	児童生徒に安全・安心な風土を醸成するために、配慮のある言動をすることができた割合が A：90％以上　B：80％以上 C：70％以上　D：60％未満	職員アンケート（学期末）			
	・自分も人も大切にする子を育てる。	・縦割り活動や異学年交流を通して、互いを思いやる気持ちを育てる。	心づくり部	・思いやりの気持ちは育ってきているが、自分から考えて行動する児童が少ない。	【努力目標】 ・周りの人に自分から親切にしたり、やさしくしたりする。	周りの人に親切にしたり、優しくしたりしていると答えた児童の割合が A:90％以上　B:80％以上 C:70％以上　D：70％未満	児童アンケート（学期末）			
③進路指導・キャリア教育	・キャリア教育の４つの柱の中の「自己理解・自己管理能力」を高める。	・好きでないことや苦手なことでも,自分に負けずに取り組む。	心づくり部	・与えられたことには素直に取り組む児童が多いが，自分で目標を持って，いろいろなことに取り組もうとする意欲が低い。	【満足度指標】 ・キャリア教育で育てたい力：自己理解・自己管理能力（学年の重点項目）を意識してキャリアパスポートを活用して指導にあたる。	好きでないことや苦手なことでも,自分に負けずに取り組むことができたと答える児童の割合が A：90％以上　B：80％以上 C：70％以上　D：70％未満	児童アンケート（学期末）			
④保健管理	・児童の体力を向上させる。	・体育の学習で走る運動を取り入れる。 ・走ろう運動に取り組む。 ・スポチャレいしかわに取り組む。	体づくり部	・前年度のスポーツテストの結果、持久力の面で県平均を大きく下回っている。 ・走ろう運動やスポチャレに意欲的に取り組む児童が多い。	【成果指標】 ・20mシャトルランを測定し、自分の記録を更新することができる。	シャトルランの記録を更新することができた児童の割合が、 A：90％以上　B：85％以上 C：80％以上　D：80％未満	シャトルラン記録（学期末）			
	・ 基本的な生活習慣を身につける。	・睡眠とメディアを関連付けて睡眠の質を上げる取り組みを実施する。 ・生活習慣チェックに取り組む。	体づくり部	・早寝早起きの取り組みを行い、十分な睡眠時間を取れている児童は増えたが、メディアの影響で生活リズムが乱れている児童が一定数いる。	【成果指標】 ・就寝１時間前にはメディアの使用を止めることができる。	就寝１時間前にはメディアの使用を止めることができる児童が A：80％以上　B：70％以上 C：60％以上　D：60％未満	児童アンケート（学期末）			
⑤安全管理	・各種の訓練を通して，児童の危機対応力と教職員の危機管理能力を高める。	・危機管理マニュアルに沿った方法で訓練や研修を実施し，児童の危機対応力と教職員の危機管理能力が高まるように努める。	教頭・ 各担当	・火災・地震，不審者対応の避難訓練を実施しているが，教職員の危機意識維持・向上には不断の取組が必要となる。	【成果指標】 ・緊急時の対応マニュアルに従って，教職員や児童が適切で安全な避難行動ができる。	避難訓練時に，教職員・児童が適切に行動できたと感じた教職員・児童の割合が A　100%　B　90%以上 C　80%以上　D　80%未満	児童アンケート（避難訓練後） 教職員アンケート（学期末）			
⑥特別支援教育	・支援の必要な児童に対する合理的配慮を全職員で共通理解し，適切な対応を図る。	・児童理解の会などを通して，児童への合理的配慮の共通理解を図る。必要に応じて校内支援委員会を実施する。	体づくり部	・児童理解の会や校内支援委員会などで，児童の情報を共有している。合理的配慮の共有を進めるとともに、評価と見直しを行っていく。	【努力目標】 ・児童への合理的配慮を定期的に評価し、児童と保護者の意向を確認しながら見直しを行う。	児童への合理的配慮を定期的に評価して見直しを行っている教職員の割合が A：90％　B：80％以上 C：70％以上　D：70％未満	教職員アンケート（学期末）			
⑦組織運営・業務改善	業務の精選、勤務時間に対する職員の意識改革を進める。	勤務時間記録表をもとに時間外勤務45時間を超えない働き方の意識を高めるとともに、業務の精選・削減・平準化を実施する。	教頭 各主任	昨年度は、時間外勤務45時間以下の職員数がほとんどであったが、月によっては大きく下回ったり、ある個人に業務が集中したりした月もあった。	【成果指標】 教職員が計画的に自分の業務に取り組み、勤務時間の削減が図られている。	時間外勤務時間45時間以下の職員数が A　90％以上である　B　80％以上である C　70％以上である　D　70％未満である	〈勤務時間記録表　学期末集計〉			
⑧研修	・校内研修を充実し、授業改善を図る。	・校内研修サポート等を活用し、計画的に授業研究を行う。 ・授業改善のためのOJTが日常的に行われるような環境を整える。	教務 学力づくり部	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた授業づくりを行っていく必要がある。	【成果指標】 ・研修やOJTをもとに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた授業改善ができる。	研修や日常的なOJTをもとに、前学期より授業改善ができたと答えた教職員の割合が A：80％以上　B：60％以上 C：40％以上　D：40％未満	教職員アンケート（学期末）			
⑨保護者，地域との連携	学校公開の機会を積極的に取り入れ、開かれた学校づくりをめざす。また、幼保小、小中の連携を更に深める。	学校公開に取り組むとともに、学校の教育活動を「学校、学年、学級便り」等を通し、幅広く知らせる。特に、HPの更新について積極的に知らせていく。	教　頭 教務主任	学年、学級学校便りやホームページを活用し、積極的に情報を発信しているが、保護者への伝わり方は十分とはいえない。	【満足度指標】 保護者に、学校だよりなどで学校の教育活動の様子がよく伝わっている。	学校の情報発信について満足している保護者の割合が A　80％以上　B　70％以上 C　60％以上　D　60％未満	〈保護者アンケート〉学期末			
⑩教育環境整備	児童の安心、安全な学校生活のために、校舎内外の環境の整備、改善に努める。	事故の未然防止という観点から、不備な箇所は速やかに整備すると共に安全点検や遊具点検を実施し学習環境の充実に努める。	総務部	校舎の老朽化に伴い、校内外に不良箇所が発生している。定期的に点検を行い、学習環境を整備し、安全を確認する必要がある。	【成果指標】 定期的に点検を実施し、学習環境の安全を確保することができた。	注意を払って安全点検を行い、環境整備に迅速に取り組んだ職員の割合が、 A　90％以上である　B　80％以上である C　70％以上である　D　70％未満である	〈自己評価アンケート〉学期末			
学校関係者評価										